

スマホ社会の親力とは

清川 ^{てももと}輝基 著 (金子書房 児童心理から)

※ 悪魔は誕生日にやってくる！ ～問われるスマホ社会の「親力」

誕生日プレゼントやクリスマスプレゼントとして親や祖父母からスマホやゲーム機を買い与えられ、それをきっかけに落とし穴に転げ落ちてしまった子は数多くいる。親や祖父母の“無知”や“判断の甘さ”が子どもたちをスマホ社会の地獄に落とすことにつながる。

親力(1) 情報収集能力

親がスマホやタブレット、ネットにつながるゲーム機でどんなことができるのか、どんな問題が起きているのかについて“学ぶ”ことである。

親力(2) 家庭力を高めよう

親子の会話が活発だったり、家族一緒に何かに取り組む習慣が作られている、といった家庭の雰囲気作りも大切な親力である。普段の親子関係が大切である。

親力(3) 与えない・見せない見識

スマホやタブレット、ゲーム機を与えない、見せない、という親の見識が何よりも大切である。発達期の子どもにとって、“百害あって一利なし”のこうしたメディア機器を子どもの前ではできるだけ使わないようにする配慮も親力の一側面である。

親力(4) 祖父母の協力体制づくり

祖父母にもメディアと子どもの育ちに関する情報をしっかり伝えて、メディアから子どもを守る協力者になってもらう。

親力(5) やむを得ず買い与える時の腹の決め方

判断能力も未熟で、経済的にも法律的にも責任能力のない中学生まではスマホは必要ない。止むを得ずスマホを買い与える場合は、親もリスクに対する相当な覚悟が必要である。

子どもが問題を起こしたとき、当然買い与えた親の責任が問われることになる。

親力(6) 買い与える時の交渉力

いきなり買うのは絶対にやめよう。なぜ必要か、なぜ今か、使い方のルールはどうするか、守れなかったらどうするか、などについて押しつけでなくじっくり話し合う。約束作りの話し合いをまとめあげる交渉力が親力の最大のポイントとなる。

親力(7) 買い与えた後の管理能力

買い与えた親の管理責任を日々果たさなければならない。約束が守れない日が三日も続いたら、没収するなど事前の約束を固い決意で実行することがわが子を守ることになる。

親力(8) 子どもに豊かな体験を

親はスマホやゲームを禁止したり制限したりするだけではダメで、それを上回る楽しさや快感を子どもが感じられる豊かな体験の機会を設定してやることが重要である。

親力(9) 子どもに守らせるべき三つのこと

止むを得ず買い与えることになっても、絶対に守らせるべきことを三つあげる。

- ① 子ども部屋、寝室には持ち込ませない。
- ② 充電器はリビングに置いて就寝時は親が預かる。
- ③ 夜10時以降は使わせない。